２０２２年度　本部事業報告

１．概況

2022 年度は、事業譲渡を受けたおおはら放課後児童クラブが 4 月 1 日より開所し、利用児童も増え保護者からも評価をされている。

子ども発達相談センター・ベンチでは、に引き続き新規利用者が増え、大幅な増収となった。かっぱどっくりでは、パン販売のイベントも復活し、売り上げの増となった。ヘルパー事業所轍では、移動の解除により、余暇支援の需要が増え、コロナ前に近いサービスの提供状況となった。

保育園では、10 月 27 日に高村保育園、平塚保育園、11 月 30 日に横内保育園、柳町保育園が県によるる指導監査が行われ、平塚保育園と柳町保育園は、文書指摘事項があった。錦町保育園あねらが 2 月 17 日に市による指導監査が行われ、指摘事項は無かった。

２．事業の実績

（１）理事会・評議員会の開催

2022 年 6 月 7 日【決算理事会】2021 年度事業報告及び決算、社会福祉充実残額、繰入金積立金、園規則改訂、評議員会開催

2022 年 6 月 23 日【決算評議員会】2021 年度事業報告及び決算、社会福祉充実残額

2022 年 11 月 15 日【補正予算理事会】事業所概況報告及び第 1 次補正予算、下宿屋移転、園規則改訂、経理規定改訂

2023 年 3 月 14 日【予算理事会】事業所概況報告及び第 2 次補正予算、2023 年度事業計画及び予算、就業規則改定、下宿屋変更届、指導監査結果、管理職人事

３．事業の重点結果

（１）障がい福祉事業の虐待防止委員会

2022 年 4 月 21 日に第 1 回虐待防止委員会を開催し、虐待防止規定の策定、研修開催等検討を 4 回行った。2023 年も引き続き開催する。

（２）下宿屋の移転

2023 年 4 月に移転を実施した。

２０２２年度　平塚保育園事業報告

１．概況

2022 年度は、年度を通して 142 人前後、105%の入所率であった。10 月に常勤職員が一人退職、３月に常勤職員が産休に入る。１月に非常勤職員が中途退職し、新たに非常勤職員を１名雇用した。

電話機の更新により 1,440 千円（主装置、電話機）で入替をおこなった。

２．事業の実績

（１）利用実績（定員：135 名（内 0 歳児：10 名））

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
0 歳児(人)	11	11	11	11	11	11	11	11	12	12	12	12
総数(人)	141	142	142	142	142	142	142	142	141	141	141	141
入所率(%)	104	105	105	105	105	105	105	105	104	104	104	104

（２）延長保育、一時預かり保育

延長保育は、2021 年度 626 千円から 2022 年度 875 千円へと約 249 千円の増加となっている。利用家庭が増えたことが増加の要因と思われる。一時預かり保育は、2021 年度 590 千円から 490 千円へ減少となった。病後児保育は、2021 年度の 95 名利用から 2022 年度は 101 名の利用となった。

３．事業の重点結果

（１）業務の見直し

職員の話し合いや園内研修を日中の時間に実施したことで、非常勤職員の意見も反映でき、有意義な時間となり、超過勤務時間の削減となった。ただ、職員の体制によっては計画通りに進められないことも多く、2023 年度は時間の調整や職員配置などの工夫について考えていくことが必要である。

（２）園内研修

新人、中堅、リーダーなどの役割別に研修を行った。年齢の近いグループということもあってか、話しやすい雰囲気で行え、各グループ共に保育の考えや状況、また個々の悩みを共有し、改善へ向けての話し合いができた。話し合いから現状把握につながったため、今後の研修に生かしていく。

（３）病後児保育室なでしこ ICT 化

「あずかるこちゃん」を導入し、1 年が経過した。登録者数は 270 名となり、徐々にではあるが増加している。利用者に関しては、コロナウィルス感染症拡大予防対策による利用時の検査を必須としたことも要因と思われるが、登録が利用者増加に結びついていない。

４．施設・設備の整備結果

・【建物】電話機主装置の更新（592 千円）
・【保育材料】安田式遊具平均台（440 千円）
・【修繕】厨房エレベーターの部品交換（341 千円）、防火シャッター（117 千円）、
日除けテント（117 千円）、スチームコンベクションガラス（142 千円）
受水槽部品交換（279 千円）

２０２２年度　柳町保育園事業報告

１．概況

2022 年度は、年度を通して 114 人前後、103%の入所率であった。

7 月より 0 歳児のコンスタントな入所のため保育士配置を見直した。12 月より雇用予定だった常勤的非常勤のキャンセルや障害児保育申請のため職員数の不足が見込まれたので、0 歳児の入所は 12 名までにとどめた。

食洗機とスチームコンベクションオーブンを老朽化により 3,774 千円で入替をおこなった。

２．事業の実績

（１）利用実績（定員：110 名（内 0 歳児：12 名））

<table>
<tr><td>月</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr>
<tr><td>0 歳児(人)</td><td colspan="3">7</td><td>10</td><td colspan="2">11</td><td colspan="6">12</td></tr>
<tr><td>総数(人)</td><td colspan="3">112</td><td>114</td><td colspan="2">115</td><td>117</td><td>116</td><td colspan="3">115</td><td>114</td></tr>
<tr><td>入所率(%)</td><td colspan="3">101</td><td>103</td><td colspan="2">104</td><td>106</td><td>105</td><td colspan="3">104</td><td>103</td></tr>
</table>

（２）延長保育、一時預かり保育の実績

延長保育は、2021 年度の 510 千円から 374 千円へと約 14 千円の減少となっている。利用家庭が減ったことが減少の要因と思われる。一時預かり保育は、2021 年度の 57 千円から 1013 千円へ増加となった。入所の叶わない 1 歳児を中心に受け入れた結果と考えられる。

３．事業の重点結果

（１）人材育成と保育の質向上

2022 年度は経験年数 5 年目以下の保育士が 7 人で常勤職員の半数以上を占めた状況で始まった。意欲的な若手保育士の中には、子どもの姿や育ちの見通しよりも自分の保育観や正義感が前面に出てしまうことの狭間で悩み、体調を崩すことがあった。指導職である園長・主任・副主任がその苦しみを丁寧に聞き取り、目指す子どもの姿をともに振り返り、子どもの姿に合った遊びと保育士のかかわりを、クラス内の他職員と共有連携できるようにサポートを行ったところ、保育を楽しむ様子が感じられるようになった。

組織の中でベテラン保育士が経験を活かせていないという課題は、若手保育士と行った遊びの事例検討の中で、意見交換を活発に行えるようになり、職員同士の連携がとれるようになった。

（２）キャリアアップ研修

研修の計画不足で、受講を進められなかった。

４．施設・設備の整備結果

・【器具備品】食洗機入替（1,281 千円）、スチームコンベクションオーブン入替（2,493 千円）

・【保育材料】区切りフェンス・半月テーブル・2×4 テーブル購入（459 千円）

・【器具備品】災害用ポータブル電源購入（185 千円）施設機能強化補助金、カーテン購入（218 千円）

２０２２年度　明石町保育園事業報告

１．概況

2022 年度は、入所児数 109 名（121%）でのスタートであった。2021 年度は 0 歳児の入所が少なく 12 月でようやく 2 桁になったが、2022 年度は 5 月には 11 人、11 月には 14 人となり、この時点で職員配置数に対して MAX の受け入れ数となった。9 月に常勤職員が 1 名産休に入ったが、新たな職員の雇用はせずに保育を行うことが出来た。

２．事業の実績

（１）利用実績（定員：９０名）

<table>
<tr><td>月</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr>
<tr><td>0 歳児(人)</td><td>9</td><td>11</td><td colspan="3">12</td><td colspan="2">13</td><td colspan="4">14</td></tr>
<tr><td>総数(人)</td><td>109</td><td>111</td><td colspan="3">111</td><td colspan="2">112</td><td colspan="4">112</td></tr>
<tr><td>入所率(%)</td><td>121</td><td>123</td><td colspan="3">123</td><td colspan="2">124</td><td colspan="4">124</td></tr>
</table>

（２）延長保育事業の実績（千円）

	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
利用料	736	494	390	333	475

３．事業の重点結果

（１）協働的な学び合いができる組織

園長を含めたリーダー層の連携がより強化なものになった。その理由は、主任のコーチング力にある。副主任やリーダーたちに質問を投げかけながら考えを引き出したり、共感や傾聴の姿勢を大事にし、一緒に考え、悩み、試行錯誤しながら気づきに繋げてきたことが大きく、副主任・リーダーの意識が高まり自己発揮につながった。結果、リーダー層が中心となり、職員一人一人についても経験や個性が発揮できるよう、適材適所で役割分担を促しながら協働して保育にあたることができている。

（２）常勤保育士と非常勤保育士の意識統一

クラス毎、日中に話し合いの時間を持つようにした。夜の職員会議には非常勤は参加をしていないため、行事についての進め方、連絡・報告事項については、これまで通りコドモンの中にある「園内連絡」や職員会議の議事録などで情報共有し、子ども（保育）に関わる大事な事柄については日中の話し合いの中で（非常勤も参加）行なうことで、保育に対する職員の意識の統一が可能になった。

４．施設・設備の整備結果

・【建物】自動火災報知設備更新工事（1,687 千円）→内、民間保育所小規模修繕事業補助金 50 万円
・【建物】電話機主装置の更新（592 千円）
・【器具備品】災害用ガス発電機（143 千円）→施設機能強化補助金、洗濯乾燥機（319 千円）

２０２２年度　横内園事業報告

１．概況

2022 年度は、4 月の入所率が 94%、徐々に増え 3 月では 112%の入所率であった。

10 月に常勤栄養士が中途退職し、短時間の調理員を雇用したが、各園からのお手伝いもいただきながら 3 月まで乗り切った。

冷凍冷蔵庫、スチームコンベクションの老朽化により 3, 398 千円で入替をおこなった。

２．事業の実績

（１）利用実績（定員：90 名（内 0 歳児：10 名））

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
0 歳児(人)	2	4	4	4	6	6	7	9	9	10	12	12
総数(人)	85	87	88	89	93	91	95	98	98	99	101	101
入所率(%)	94	96	97	98	103	101	105	108	108	110	112	112

（２）延長保育、一時預かり保育

延長保育は、令和 2021 年度の 292 千円から 349 千円へと約 57 千円の増加となっている。兄弟の利用家庭が増えたことが増加の要因と思われる。一時預かり保育は、2021 年度の 175 千円から 111 千円へ減少となった。

３．事業の重点結果

（１）研修の状況

キャリアップ研修では、リモートや対面形式それぞれ計画的受講ができた。

園内研修は、年間５回（内若手３回)、日常保育を実践するために必要な能力を身につけられるように、園内のエピソードを元にした文章表現力や保育士のさながらの姿に当てはめ、「大事なこと」「得意なこと」「好きなこと」を言語化し、自己理解ができるような研修を行った。

（２）チームワークの強化

子どもや保護者の安心・安全を守るためには、職員間の意思疎通を図りながらチームワークを良好にすることが不可欠である。各クラスリーダーの役割と保育士同士が協力していく体制を作りチーム保育を行うようにした。また若手保育士育成に重きをおき、先輩たちが、聞き役に回ったうえで、若手保育士に任せて見守ったり、肯定的な対応を取り入れ自信をもって保育ができるようにサポートすることを意識して関わった。

４．施設・設備の整備結果

・【建物】監視カメラ更新（549 千円）

・【修繕】電動オーニング（512 千円)、水道元栓（387 千円）

・【器具備品】スチームコンベクションオーブン更新（2,720 千円)、冷凍冷蔵庫更新（607 千円）

２０２２年度　高村保育園事業報告

１．概況

2022 年度は、年度を通して 140 人前後、105%の入所率であった。4 月は 0 歳児の利用希望が少なかったため、1 歳児を定員数を超えてお預かりし、充足を図った。11 月に常勤職員が産休に入り、常勤的非常勤保育士、短時間保育士の 2 名を雇用し、定数の充当を図ることができた。

２．事業の実績

（１）利用実績（定員：135 名（内 0 歳児：15 名））

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
0 歳児(人)	8	9	9	11	11	13	13	13	13	14	14	14
総数(人)	136	137	139	141	141	144	143	141	140	144	144	144
入所率(%)	100	101	103	104	104	107	105	104	104	107	107	107

（２）延長保育、一時預かり保育

延長保育の利用児童は 2021 年度実利用数 26 人、延べ利用数 1,418 人（298 千円）から、2022 年度実利用数 29 人、延べ利用数 990 人（177 千円）と全体数を見ると減少している。18 時 30 分過ぎまでの保育利用児が 1 人おり、保育士 2 名の配置が必要なので、事業としては厳しい状況がある。

一時預かり保育については、2021 年度延べ 112 人（173 千円）と比較して 2022 年度は延べ 171 人（359 千円）と増加した。新型コロナウイルス感染症がおちついてきたことから、利用ニーズが増えていると考えられるが、体制がとれず、お断りをせざるを得ないことも多かった。

３．事業の重点結果

（１）勤務体制の見直し

保育士が一人産休に入ったことで、土曜日に出勤できる保育士が減り、土曜日の出勤が隔週になるようなシフトが増えてしまった。平日に休みを入れたり、アルバイトや短時間パートの職員の時間帯を工夫する等配慮したが、負担感の軽減には至らなかった。

（２）人材育成と園内研修

エキスパート研修履修保育士による園内研修では、研修を実施する側(伝える難しさ)と受ける側(上手に聞く)の双方を体験することが刺激となり、学びを深めている様子があったが、保護者支援・子育て支援分野の研修は後半途絶えてしまい、担当保育士の研修に対する意識に差が見られ課題となった。もう一つの園内研修として、子どものわくわくや学びの瞬間をとらえた写真付きの記録を作る、「コドモンの保育ドキュメンテーション」を使い、同じ場面をみんなで振り返り、保育指針と照らし合わせて子の学びや保育の理解を深めていくようにした。

４．施設・設備の整備結果

・【器具備品】カーブパーテーションの購入（604 千円）

２０２２年度　錦町保育園あねら事業報告

１．概況

2022 年度は、新型コロナウイルス感染症や出生率減少の影響が大きく、0 歳児の入所については、2022 年度始めは定員まで全く見通しがつかなかった。8 月で定員を満たし、2021 年度とほぼ同じ入所状況で定員 100%に達した。

２．事業の実績

（1）利用実績（定員：１９名（内 0 歳児：３名））

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
0 歳児(人)	0	0	0	2	3	3	3	3	3	3	3	3
総数(人)	16	16	16	18	19	19	19	19	19	19	19	19
入所率(%)	84	84	84	18	100	100	100	100	100	100	100	100

３．事業の重点結果

1）０歳児入所

０歳児入所減少傾向の影響が運営に響いてくることの懸念から、対策として保育の質の向上と地域イベント参加、広告（SNS)、マタニティ向けのイベントを開催したことで、2023 年度の 0 歳児入所 2 名につなげた。

（2）自分ごと化したチーム育成

2021 年度までは職員全体で子どもたちを見てきたが、2022 年度はクラス担任を設け、子どもの把握と責任を持ち、チームで保育ができる環境設定をした。それぞれの職員の役割を明確にしたことで一人ひとりが自覚し、当事者意識を持って取り組むことができた。

また、その中で主任、リーダーは若手職員と共に月案作成から実践保育に取り組みながら互いに達成感を感じ、保育を楽しむようになった。

２０２２年度　つどいの広場「もこもこ」事業報告

１．利用実績

2021 年度　　3427 人(187 組)
2022 年度　　3137 人(185 組)
＊は新規登録登録者数

・避難訓練を５月と 11 月の２回実施した。
・1 月 4 日平塚市保育課より
　【変更前】付き添いの保護者はお子さんが２名以上でも原則１名
　【変更後】お子さん１名につき、付き添いの保護者は１名まで
　※例えばお子さん２名、保護者２名の場合は２組４名としてカウント。
　※お子さんが１名の場合、保護者が２名利用することできない。
・3 月 1 日よりマスクの着用は利用者の判断とした。
・利用定員になり、お断りすることがあった。

２．事業の状況

・こいのぼり制作
・七夕制作
・秋まつりは蜜になる可能性が高い為中止→ハロウィーンの飾り制作
・クリスマス製作
・ひなまつり製作
・毎月一回お話し会
・毎月誕生児にカードを渡し祝った

３．施設・設備の整備結果

・【建物】受付サッシ改修網戸取付工事（187 千円）

２０２２年度　放課後児童クラブ事業報告

１．概況

2022 年度は、後半にはコロナ感染症（濃厚接触者・感染者）数も減り、これまでの放課後の児童生活が戻ってきた。それに伴い保護者の就労状況もリモートワークが減り、通勤となる保護者が増えてきた。利用希望される子どもたちの、「随時申請」での問い合わせがみられ、児童数の増加が予想される。

また、崇善・冨士見小地区の児童数が増加の傾向や、松原小においては「放課後児童クラブ」の利用率が他校より多い（行政より）とのことで、今後の各所の利用児童数を注視する必要がある。

２．事業の実績

（１）利用実績

月＼歳児	そうぜん１	そうぜん２	せんげん	みやのまえ	まつばら	おおはら
2021/4	25	28	26	43	40	
2022/3	24	28	21	39	44	(17)
2022/4	34	33	30	54	44	22
2023/3	30	30	24	48	38	14
2023/4	38	35	31	61	45	22

３．事業の重点結果

（１）「おおはら放課後児童クラブ」の法人委託受け入れ

2022 年 4 月 1 日より法人運営にて開所となった。

これまでの旧「大原学童クラブ」の施設は古く、新たにマンション一階店舗を施設としたことで生活環境もよくなり、保護者からは「気持ちがいい」「お迎えがしやすい」等のお声をいただいている。

登録人数は、大原小学校の規模をみると妥当と考える。

（２）ＩＣＴの導入

各所 2022 年 6 月より導入スタート。利用児童が入退室の際に各自「個人 QR コード」をタブレットにかざし「入退室管理アプリ」を作動させるが、当初各所にて「低学年児童の扱いに無理があるのでは？」という意見もあった。子どもの順応性は大人の考えをはるかに超え、支援員よりも早くタブレットの操作を覚え、順調に機能した。保護者からは「所在が分かり、安心する」との声をいただき「おたより」や緊急時登の一斉配信も速やかに行えている。

（３）昼食（お弁当）の提供

当初お弁当業者の契約先が、高齢者施設がメインだったようで、児童の味覚に合わなかったようで注文数が減となり、また残食が多くなるなどのケースがおきたため、業者と 2021 年 8 月より子どもの好まないメニュー（残の多い）が出ると業者との意見交換等を行ない、メニューの改善等を試みていただいた。今後も子どもたちへの、業者提供のお弁当への「食」の様子を見ていく必要がある。

２０２２年度　こども発達相談センター・ベンチ事業報告

１．概況

2022 年度は、登録数は児童発達支援（児発：未就学児）23 名と放課後等デイサービス（放デイ：小学生）25 名の計 48 名、稼働率 89%でスタートした。年度末には児発 36 名と放デイ 23 名の計 59 名で稼働率 102%であった。年間の平均稼働率は 91.5%となり、前年度（2022 年度 89.3%）を 2.2 ポイント上回った。

２．事業の実績

（１）利用実績（定員 50 名）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
登録数（名）	48	50	49	50	51	55	57	58	59	59	59	59
稼働率（%）	89	85	85	83	73	93	93	94	98	100	102	102

３．事業の重点結果

（１）事業所の特色の明確化

ベンチが重点を置いている 5～6 名での「小集団療育」を中心に活動した。また、集団活動がまだ難しい利用者に対しては個別活動を実施し、柔軟な対応を図った。言語聴覚士による言語療法をベースにした「クイズ」のプログラムを継続して実施しており、発達年齢に応じた内容を提供することができた。

（２）登録者数の確保

新規登録者数を確保するため、今年度も「平塚市こども発達支援室くれよん」の経過観察グループ終了者を対象に体験見学を積極的に実施した。27 名の見学者の内 23 名が登録にいたった。

（３）保護者支援の充実（保護者会の再開）

年度当初に保護者説明会を実施し、ベンチでの事業内容や療育の目的等を伝え保護者と共通認識を深めた。また、保護者が子育てに対しての戸惑いや悩みを早めに相談できるよう、面談や電話、メールでの相談を実施した（定期外の面談:年間 8 件、電話:月に 2～3 件、メール:月に 5～6 件）

４．施設・設備の整備結果

・【器具備品】複合機購入（236 千円）

・【建物】幼児用手洗い場の設置（480 千円）

２０２２年度　自立支援事業所あやとり事業報告

１．概況

2022 年度は、登録者数 26 名で開始した。年度途中に 1 名が退所し、年度末には契約者数は 25 名となった。

２．事業の実績

（１）利用実績（※利用率＝月間延べ利用者数÷(開所日×定員)×100）

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
就 B(定員 20 名)	契約者数	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	25	25
	利用率	103	105	108	103	93	104	104	104	99	99	98	101
日中一時支援	利用者数	20	16	24	25	28	30	27	30	29	40	26	34

新型コロナによる影響を受け一部利用者が利用をひかえることがあったが、年間平均利用率は 101.8%であった。日中一時支援利用者は、年間延べ 329 名（2021 年度 221 名）だった。

３．事業の重点結果

（１）利用者の確保

支援学校生徒の実習を積極的に行い、2023 年度の新規利用者 1 名の確保につながった（2022 年度は 3 名)。

（２）利用者の工賃向上計画に基づく工賃のアップ

天候不順などにより野菜の売り上げが若干落ちたが、内職作業の金属の札とりやボールペン組み立て作業を増やした結果、当初の目標以上の工賃アップにつながった（年平均工賃月額 11,318 円)。

（３）利用者へのサービス内容の向上（他施設等との連携を図る）

コロナの影響を考慮して利用をひかえた利用者に対し、定期的に連絡をとり、本人や家族の状況把握を行った。

将来的な就職を希望する利用者に対し、就労援助センターと連携し、県が実施する職業訓練「トライ！実践就労体験科」の利用を含めた実習等を行った。

４．施設・設備の整備結果

・【修繕】天窓の経年劣化に伴う改修（499 千円）

２０２２年度　自立支援事業所かっぱどっくり事業報告

１．概況

2022 年度は、就労継続支援 B 型事業は 19 名/20 名で開始した。途中、新規利用者が 2 名、就職と転居による退所者が計 2 名あり、年間稼働率は 70%(前年度 65%)となった。就労定着支援事業は 1 名が 5 月に利用期間終了となり、1 名となったが定期的に職場訪問および相談支援を実施した。

２．事業の実績

（１）利用実績（※利用率＝月間延べ利用者数÷(開所日×定員)×100）

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
就 B(定員 20 名)	利用者数	19	19	19	19	18	19	19	19	18	18	19	19
	利用率	66	68	70	67	66	71	73	74	70	62	73	74
就労定着支援	相談者数	1	2	1	1	1	0	1	1	1	1	1	0

※1 月は事業所内でコロナ感染が広がったため利用率が低下した。

（２）生産活動の実績

2022 年度の就労支援事業収入は 9,544 千円となり、前年度 7,635 千円より 1,909 万円増加となった。コロナ感染予防対策の緩和や各イベントの再開、新規の販路拡大により、売り上げが増加する結果となった。清掃作業については、委託施設の休業中も清掃活動は継続されたため大きな増減はなかった。

３．事業の重点結果

（１）利用者の確保

2022 年度は、あやとりからの紹介と町内の相談支援事業所からの紹介により、2 名の新規利用があった。未だ定員に達していない現状にあるため、今後も引き続き関係各所への働きかけとあわせて、ホームページの充実と情報紹介サイトへの登録等、オンラインで利用者を集める方法も模索していく。

（２）作業工賃の維持

2022 年度の平均工賃月額は 15,412 円となり、2021 年度の 15,197 円を上回る結果となった。利用者への工賃額は福祉サービス費の基本報酬に反映されるため、今後も月額 15,000 円以上を維持していく。

（３）職員研修の充実

2021 年から導入している e ラーニングサービスを利用したオンライン研修を継続した。各職員の平均視聴時間は 20 時間を超え、各々のスキマ時間に共通のテーマで受講することができるため、職員会議やケース会議等での課題の共通認識や抽出に好影響をもたらしている。

４．施設・設備の整備結果

・【修繕】ホイロ修理（334 千円）

２０２２年度　下宿屋・下宿屋寒川事業報告

１．概況

入居者は、4 月に下宿屋で男性 1 名が腎臓の腫瘍摘出手術を行い、3 月に下宿屋寒川で男性 1 名が胆石の除去手術を行った。新型コロナウイルスの感染は、下宿屋で 4 人の入居者が感染した。各フロアで 1～2 人の感染で収まっている。感染者の移動を洗面所、トイレ、浴室に限定し、支援スタッフは N95 マスクの着用を徹底した。

職員は、主任が 6 月で退職。代わって 10 月より在職 11 年の職員を主任に任命。2023 年 4 月新規採用予定の学生に支援員業務/宿直業務に入ってもらった。短時間のパート職員 3 人が退職し、2 人新規採用。調理担当の支援員を 2 月より採用した。

寒川町岡田 37 番地 1 にワンルーム 10 室、3 DK 3 ユニットの定員 19 人の居室を備えた建物 2 棟を建て、2023 年 4 月 15 日、16 日で引越しを行った。

２．事業の実績

（1）入居者概況（入居者数は体験利用含む）＜利用率＝月間延べ利用者数÷（定員×暦日数）＞

	月	定員	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
下宿屋	入居者数	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	18	19	19
	利用率(%)		94	93	98	96	96	97	97	98	93	88	98	97
寒川	入居者数	6	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	6
	利用率(%)		66	67	67	70	70	72	83	77	80	80	83	86

3 月末の在籍数（体験除く）は下宿屋 19 名/19 名、寒川 6 名/6 名

３．事業の重点結果

（1）定員の充足

各相談支援センター等に打合せの都度、部屋の空き状況を伝えていたこともあり、2023 年 3 月 31 日現在、下宿屋 19 名（2 月新規 1 名）、下宿屋寒川 6 名（3 月新規 1 名）の定員が充足できた。

（2）職員体制の維持

これまで所長が、管理者、サービス管理責任者、及び世話人の 3 職種を兼務していた。県の指導もあり 2023 年 4 月より新卒者を常勤雇用（世話人）し、兼務をサービス管理責任者との 2 職種に改める。

４．参考数値入居者数（2023 年 3 月 31 日現在）

年齢別	／	～19	～29	～39	～49	～59	60～	平均
下宿屋・下宿屋寒川	男	0	5	7	5	2	1	37.2 歳
	女	0	1	3	0	1	0	35.2 歳

障害支援区分別	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	平均
下宿屋・下宿屋寒川	0	6	8	7	4	0	3.2

２０２２年度　ヘルパー事業所轍事業報告

１．概況

下宿屋・下宿屋寒川（共同生活援助）とヘルパー事業所轍（居宅介護、移動支援）は利用者の居住と移動をそれぞれ支え、お互いの機能を補って事業を継続してきている。下宿屋・下宿屋寒川の事業では居室は満室であるが、生活が自立している利用者が多く、まだ移動支援の利用に十分には結び付いていない。

２．事業の実績

（１）2019 年度利用実績（時間数）　　外部利用率 68%

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
移動支援	262	222	217	221	242	238	259	262	233	231	269	131	232
居宅介護	17	10	12	7	9	10	11	9	10	7	9	7	10

（２）2020 年度利用実績（時間数）　　外部利用率 62%

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
移動支援	87	71	135	143	136	145	146	166	195	158	148	166	141
居宅介護	5	11	14	12	6	13	10	18	4	13	5	11	11

（３）2021 年度利用実績（時間数）　　外部利用率 57%

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
移動支援	173	160	176	156	176	181	182	175	166	181	156	198	174
居宅介護	11	9	7	15	14	15	14	15	17	7	8	16	13

（４）2022 年度利用実績（時間数）　　外部利用率 55%

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
移動支援	207	196	202	209	161	186	242	221	213	196	227	204	205
居宅介護	12	17	12	10	16	16	8	19	20	11	13	18	14

３．事業の重点結果

（１）利用者の確保

下宿屋の入居者が増え満室となった、それに従って内部（下宿屋利用者）の利用率が伸びた。利用時間に関しては、コロナ前の利用時間数に近づいてきた。

２０２２年度　子ども健全育成推進事業報告

１．平塚市学習サポート

中学校 1、2、3 学年の生活保護家庭・生活困窮家庭(市の担当課の基準による)の生徒を対象として、面接を 3 月下旬から行い、４月中旬から開講した。

コロナ禍での必要な環境整備を進める中で、生徒への対応については、心の安定が図れるよう学生指導者とのコミュニケーションをいつも以上に大切にしている。

一昨年度購入したタブレット端末を有効活用できるように開講時の全員利用、三年生への貸出し等、利用環境を整えた。AI 型教材 Qubena は、今年度から 5 教科内容に更新され、単価も安くなったこともあり、全学年の生徒に活用範囲を広げることができた。この活用によって、数学を中心に行う学習に加えて、生徒からの要望を受けて他教科の学習も進めることができた。

また、昨年度から学習指導要領の全面実施に伴い全教科書改訂となり、これに応じて「数学用語集」をまとめ、生徒に配布した。引き続き、英語・漢字・算数等の教材整備を進めている。

２．あすなろ（二宮大磯教室）

二宮町民センター会議室において、16 時 30 分開室 19 時 30 分閉室として計 44 回開催を計画し、当初の計画のとおり事業を実施した。新型コロナ感染症予防対策は、全年度に引き続き参加者のマスク着用、3 密の回避、教室内の消毒、換気などを開催の都度留意して行った。

中 3 の要支援者 1 名は、全く通室してこなかったが受験し合格した。高 2 男子は、9 月から通室する事がなくなった。高 1 女子は、50%の確率で通室してきている。高校生には中途退学することなく高校卒業できるように見守り支援していきたい。教職経験者等による個別対応の支援、また大人の対応による居場所つくりは、効果的ではあるが、教室を開催し、通室してもらわなければ指導力を発揮してもらえない恨みが依然として残る。

中 2 女子は、周囲が受験モードに入ってきつつあることを察知したか、以前より支援を真面目に受けるようになってきている。中 1 男子は、ピアプレッシャーに左右されやすい傾向が強く感じれれる。早く自分の目標を見つけて欲しいと思う。小 6 女子は、早期発見早期処遇の学習支援が効果的と考えられる点では効果を上げていると思われる。大人の支援がないと積極的に通室しないが、中学生になったら自分で通ってくると現時点では表明している。基礎基本が確実に身についているとはいいがたいところであるので、引き続き通室して中学の学習に付いていってほしいものである。

なお、登録者が少なく、通室者も少ないことから 2022 年度は学生の支援者の雇用を見送った。

２０２２年度　本部収益事業報告

１．概況

2016 年 4 月まで診療所事業に供していた建物部分を、2016 年 5 月より賃借することにより本部収益事業を開始した。建物および備品を収益事業に移管し、その対価として借入を本部より起こした。

２．事業の実績

家賃及び水道光熱費等の実費収入（5,745 千円)、雑収入（28 千円、国の節電プログラム）に対して必要経費（人件費、事業費、業務委託費、保険料、租税、保守料、及び減価償却費、4,883 千円）を差し引き、収益（889 千円）が発生した。収益は 2,000 千円以内であり、みなし寄付金とみなされ非課税となる。890 千円を社会福祉事業に算入計上（事業区分間繰入金）した。減価償却費分で、本部からの借入金を返還（1,369 千円）した。